

「武州世直し一揆」の現場を歩く

2018-11-07 記 中村 宣夫

■実施日時:2018年11月7日(水) 10:00～14:15

■場 所:飯能市大字上名栗 地区

■参 加 者:総勢33名 ●野老澤の歴史を楽しむ会 8名

※他に ①明治150年・維新期の所沢を学ぶ会 ②武州世直し一揆の会(飯能)も参加

■講座及びウォーク

①講座:名郷ふるさと会館

島田 稔 先生

②ウォーク:一揆ゆかりの場所を訪ねて 約5.2km 小俣洋一郎氏(一揆の会事務局長)

川中 正憲氏

1. 講座「武州世直し一揆と上名栗村」

①時代背景 「武州世直し一揆」。皆さんは聞いたことが有りますか。幕末の慶応二年に開港され、以降庶民は物価騰貴に苦しんだ。更に、慶応四年には天候不順で凶作となった。また、幕府が長州戦争を見込み米麦の買い占めを行った。このため米麦の値が高騰してしまったこのような状況のなか、大坂、兵庫では空前の打ちこわし、一揆が起こり、江戸でも大規模な打ちこわしが起こった。

②「武州世直し一揆」の概要

このような世間情勢は、当然この名郷地区にも影響が有った。この地区は山間地で水田、畑が無く米が採れなかった。山間地のため、木材や炭を売り現金収入を得それで米麦を買うという生活を送っていた。ところが先ほど話したように物価が高騰し、米麦を手に入れることが非常に難しくなってしまった。

そこで慶応二(1866)年五月、上名栗村の「紋次郎」、「豊五郎」、他の村の主だったものが、通称「わらび谷」の山中に集まり、米の安売り・施米施金や質物・質地の無償返還を求めて、広域・同時多発的蜂起策を練ったと考えられている。そして周辺の山・谷沿いの村々にオルグを派遣し蜂起の趣旨と組織・行動形態を周知徹底した。

六月十三日夜浜居場から八ヶ原までの百姓たちは、暮れ六つ(午後六時)ごろから「不動淵」付近に集まり始めた。人々は手に手に鎌や鋸・斧などを持って、「飯能へ押しかける」と氣勢を上げ始めた。当然、動きを察知した村役人や寺の僧たちは何とか押しとどめようとしたが、到底止められるものではなかった。「世直し大明神」の幟を押し立て、竹ぼらを鳴らしながら繰り出した。農民たちは、成木谷、吾野谷へも檄を飛ばしながら鍛冶屋入りから仁田山峠を越え原市場へ抜けた。さらに人数を増やしながら、翌朝、飯能河原へ集結した。一揆勢は名主、大商人、穀屋に対して、山間村落への米穀流通・安売り・施米を求めたが、交渉は決裂し、たちまち4件を打ちこわしてしまった。これが一揆の発端で、その後この所沢にも押し寄せてきた。更には寄居、青梅・八王子、秩父の小鹿野までも広がった。

その後、幕府側は鎮圧に転じ、十八日、群馬の新町宿を襲ったところを、代官所と高崎藩の連合軍に弾圧され、死傷者26、逮捕者300～400人を出して壊滅、一揆は約一週間で終わった。

2. ウォークの状況

①松木観音堂

講座のあと、私たちは「武州世直し一揆」にゆかりのある場所を訪ねて歩いた。まづ最初に行ったのが松木観音堂である。ふるさと会館を出て県道53号線を山伏峠方面へ向かった。入間川沿いにし10分ほど歩くと左の斜面を登る細い道があった。この細いジグザグの山道を10分程登ると「松木観音堂」が見えてきた。これは上名栗村に住む「紋次郎」が安政三(1856)年に棟梁として建てたものである。入口正面の掲額も紋次郎作といわれ、内部正面右の柱に紋次郎と村内寄進者の名前が彫られている。この紋次郎は町田家の小作でもあったが、農間稼ぎの大工仕事为本業であった。



②「紋次郎墓」 「豊五郎墓」

この紋次郎、実は「武州世直し一揆」の首謀者の一人でもあった。一揆収束後幕府に捕らえられ死罪判決がでた。しかし、その判決が出る前に牢死してしまった。当年四二歳であった。その墓が、観音堂からの帰り道左側の斜面の上にあった。

また首謀者の一人と言われた「豊五郎墓」が上名栗バス停のすぐ近くにある。県道53号と川沿いの旧道の挟まれた場所である。豊五郎も町田家の小作人であったが、実際は桶職人であった。一揆後遠島判決であったが、やはり判決前に牢死。紋次郎より二つ上の四十四歳であった。

紋次郎も豊五郎も実は首謀者でなく、実際には他にいたという説もある。真相はどうだったのでしょうか。二人の墓前で、一揆の会の川中様の尺八を聞きながら線香を供えてきた。

③「わらび入り」

首謀者が最初に集まり色々策を練った場所である。先ほどの豊五郎墓の直ぐそばにある橋を渡ると蔵山へ4.5kmの標識があった。この山奥の広場で謀議があったと言う事だが、今回はこの橋のたもとで思いをはせ戻ることにした。どんな場所だったのだろうか？

④「正覚寺」

一説には、一揆の中心者たちが正覚寺本堂で策を練ったとあるが、正覚寺住職は一揆を押しとどめる村役人たちとともに行動していることから、疑問詞されている。しかし、正覚寺壇中は残らず一揆に参加したといわれる。

ここまでがウォークの第一部。この後楽しみな昼食、正覚寺の「精進料理」を食した。このお寺では泊まり込みでの座禅体験などもやっているようです。興味のある方は問い合わせてもらいたいですか。

⑤「不動淵 新井不動尊」

正覚寺での食事後、入間川右岸の旧道を歩いた。かつて林業・鉱業が盛んだったころはここにも映画館などが有る歓楽街だったそうだが、いまはその面影はどこにもなく静かな小道で散歩にはちょうど良い道だ。暫く歩き分岐を左の方に進み自動車道を少し歩くと不動淵という所があり、不動尊を祀っている。一揆勢が最初に集結した場所と言われている。村役人たちがここで押しとどめようとしたが一揆勢の方が強く、突破されてしまった。

⑥人見 「町田氏宅」

道を戻り再び旧道を歩く。人見と言う所に、古組名主町田滝之助宅がある。村役人たちはここに集まって情報交換し一揆対策を話し合った。一揆勢がそろっている場所に行き止めるしかないと決まって、近隣の村々へこの動向を伝えることにした。



⑦浜居場 鎮守檜瀨諏訪神社

しばらく歩くと、川の対岸に「檜瀨諏訪神社」が見えてきた。木陰に隠れて良く見えないが古くからある神社である。人見地区には古くから獅子舞が伝わり、鎮守檜瀨諏訪神社の例大祭で奉納されている。

県道は車で何度か通たことはあるが、旧道は初めてで歩いた。道幅は狭いが静かな雰囲気、意外にも普段見えない人家が沢山あった。また山々の木々は紅葉しかけていて目にも優しい良い道で、また訪ねてみたくなった。

担当:Dグループ

青木、奥富、小林
佐藤、戸田、中村

(当日歩いたコースです。
ご参考までに。)

注1. この報告書は当日頂いた資料を参照し記述しています。

注2. 「武州世直し一揆」に関しては、2017. 2. 25日に当会で勉強会を行いました。その時の報告書も在りますのでご参照下さい。(ところざわ倶楽部 活動報告書。)

